A. Natsu no yo no, midsu ni utsurau tsukikage wa ;
nami no mani mani, kadsu masau nari.

B. Nageki tote tsuki yawa mono wo omowa suru ;
kakochi gawo naru waga namida kana.

女學雜誌第貳拾四號目次

●演說筆記○意匠論（田口卯吉君）●新報數件●叢話○五音のかへし○日本婚姻風俗集の二○西洋婚姻談○歐米禮式●寄書○吾等の姉妹に告ぐ○婦人問答二○梅の文●社告●廣告

五月廿五日

社告　本號より都合により社說と佳傳との二欄を畧きたり次号には復た恒例に隨ふべきを以て之を通常と認る莫らんことを乞ふ

○珊瑚の玉（四）

●佛蘭西の碩學ボトリユー曰く國家の文明は一に婦人の敎育に關そ

●佛蘭西の第一世ナポレオン皇帝の敵國と戰ふや先づ其國婦人の有樣を探索しろの身体の强弱如何を撿するを常とせり是れ婦人弱ければ其子弱く其子弱ければ其國は兵力弱く婦人强ければ事情全く其反對に出るの理を知りたるがゆゑなり

●花月草帋の著者白河の樂翁公かの觀雪の宴に簾を揭げたる淸少納言を評して曰く雪の降りたるにこぞたるも口惜ければ彼の高峯の雪はと云ひたれば何となふ打ゑみてまた立もやらでさすがに捨もをりて童なんどにあれのゝげ玉へよなどほのかに云ひしところよければいとも女はかゝるべしとぞ

甲　夏の夜の水にうつろふ月かげは波のまに〳〵數まさふなり

乙　なげきとて月やは物を思はするかこちがほなるわが淚かな

女學雜誌第貳拾四號（明治十九年五月廿五日）

●演説筆記

○想像世界

田口卯吉君演說

貴女紳士諸君よ　私は是まで數々演説を試みたるとあれども專ら婦人の爲にとて演説するは實に今日が始めてで御坐ります故に如何なる論題が最も能く婦人の意に適すべきや甚だ不案內で御坐りまする唯々暫く靜に聞かれんとを希望いたします私が今ま演説せんとする論題は想像世界と申すものでおざりまする諸君よ人の世の中には俗世界と想像世界との二ッの區別が御ざりまする俗世界とは一家の事務一國の政務の如く手紙を書き法律を立つるなどの如き俗務を行ふ世界で御ざりまする想像世界とは心の中に種々の想像を書き出して或ひは樂み或ひは悲しむ世界で御ざります今ま近く譬を執らんに諸君が音樂を聞きて樂しまるゝは單に其音の快きが爲めなるか決して然らず必ず此音を聞きて身の俗世界を離れて天上に登り天人の間に遊び樂しむが如き想像を生ぜるが爲に樂しき事ならん諸君が友人の死に逢ひて悲まるゝは單に其死を悲まるゝか決して然らず或ひは以前漸しく交はりし時の事を思ひ出で其死する時に如何なる心でありしかなどゝ想像するが爲に悲しきとならん昔し支那に顏回と云へる人あり淸貧を樂しめりと云へり貧は如何に淸くとも樂しきものではありませんまして一簞の食一瓢の飲陋巷にありなどゝ申せば我國の裏長屋に居ると同樣でありましやうイヤ裏長屋どころでもない支那に遊びし人の話を聞くに支那の町のキタナイ事も鼻持もならぬとの事で御ざいます此キタナイ支那人でさゑ人は其憂に堪へずと申す程のキタナサで御坐りますれば顏回のキタナサは隨分ひどい事で御ざりましたろう然るに回や其樂を改めずと申すを見れば顏回は唯々書を讀みて身を古の賢人君子達の間に置いた心地で居たので御ざりましよう然して見れば衣食住の事などには一向頓着しなかつたのも無理でもありますまい俗世界と想像世界との區別は大約右の如きもので御坐ります

去れば人も如何なる人と雖も想像世界を脱する事は出來ません古より歌人などが巧みなる詞を述ぶるのを見るに唯々此想像を巧みに胸の中に畫くとで御ざります花を見て美しと思ひたる丈けでは是れは感覺のみにて想像ではありません是れは昔し奈良の都に咲きし八重櫻なると想像してこそ無上の情思ありて面白きとではありませんか月の光を見ても單に淸しと思ひし丈けにては是れは感覺のみにて想像ではありません是月ころは遠き故鄉なる三笠山に出でし月なるよと想像するに至りて非常の感

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

慨ありて名歌となることでありましよう山川原野の風景を見て其廣大無邊なるに感じても單ゝ感じたる丈けにては想像ゝあらず別に心の中に案出する所のものがなければイケません去れバ人世をして愉快ならしむるも又不愉快ならしむるも單に此想像の書き方一ツにあることで所謂心の持樣にあることでありましよう去れバ愉快に一世を過ごさんと欲せバ常に面白き想像の胸に浮ぶ工風を爲さねバなりますまい常に面白き想像をして胸に浮バしめんと欲せバ古人や今人が我々に示めす所の美しき想像を見るのが第一緊要の事で御坐りましよう古人の想像の今日ゝ遺るものハ第一文章詩歌第二音曲第三芝居第四繪畫第五器物にして今人の顯ハす所の想像ハ風俗で御ざります

然しながら私ハ以上に顯ハるゝ想像を以て我心を樂ましめんとそるに至りて非常の失望を發することが御坐ります今其譯を說きましよう抑も戊辰の革命ハ俗世界に著しき變革を生じましたが想像世界にも大なる感覺を與へました第一文章に付きて觀察しますに戊辰以前に於てハ種々の文躰我國に行ハれて各々特種の妙味を持ちて居りまして譬へバ勇ましき想像を記るすにハ漢文が宜しきとか優しく憐れなる有樣を述ぶるにハ和文躰が宜しきとか意氣で且婀娜なる風俗を序そるにハ人情本躰が宜しきとの申す如く色々の想像と書くに色々の文躰がありました是ハ皆な封建時代の書き手に色々の種類がありました故に斯の如くなりました譯で御ざりまそ其時代に於て勇ましき事を書く人ハ優しきことを書きませぬ優しきことを書く人ハ意氣な事と書きませぬして儒者學者戯作者など申して人種が丸で違ひて居りました然去ながら今日我々が見て以て面白しと思ふ文章ハ斯く一方に偏せずして勇ましいのも優しいのも意氣なのも一文の中にあるとを望みましよう去れバ今日名文章と申せバ凡ての想像を書き得たる者でなければならぬと思ひますが是迄未だ斯の如き文章が起らない故に我々の愉快も餘程寡いと存じます第二音曲に就いて觀察しますに音曲にも餘程の欠點があると思ひます其ハ如何と云ふに今日日本社會の人は凡て獨立獨行の人でありまそ決して昔の如く尸位素餐の人でハありません去れバ世間に出でゝ種々の事業と營み或ひは失敗そる事もあり或ひは成就する事もありて其心ハ仲々忙しく御坐りまそ決して昔の如く悠々閑々としたる者でハありません此人が音曲と聞かんと欲するハ先づ如何なる場合かと申しますれバ失敗の憂晴しか成就の御祝ひで御坐りましよふ其時の音曲ハ今日之音曲のどれが適して居りますか彼の雅樂のピーピー同じ樣なる調子で半日も吹きて居るの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は我々には更らに面白くも感じますまい然らば琴は如何にと云ふに組や段物は氣長で迚も聞きて居られますまい山田物は少々く活潑なる樣でありますが是も昔の御姫樣や御孃サンに丁度宜しき鳴物にて今日の人には適しません先づ第一に今日の人は山林に引籠りて孤獨を樂しむの人でなく今日の時代は南風の歌を唄ふて天下を治ると云ふ時代でない事に注意せねばなりません淨瑠璃長唄の類は曲節に於ては以前のものよりは稍々進める所はあります是れは昔は不等人種が專ら聞きしもの故其文章下品にして稠人高坐の場合には甚だ不向なる言語など多くあります去れば今日我々が憂晴や御祝を爲さんと欲するも適當なる曲音のなきも甚だ困却ではありませんか第三芝居の想像も亦た改良を加へねばならぬ事と思ひます抑も今日の芝居は全く封建時代の遺物にして其善人は封建時代の忠臣其惡人は封建時代の惡黨其色男色女は封建時代の若旦那御娘サンで御坐ります然るに今日は此の如き人物は一人も御ざりません我々は主人を頂くものでなく我々は家來を持つものでなく傭ふ人と傭はるゝ人との關係は全く同等にして以前とは大に事情を異にするに至りました去れば封建時代の惡人が主家を奪はんとて慘酷を極むる有樣や忠臣が身命を抛ちて主家に盡す事などを見ましても更に感ぜざるのみならず少々馬鹿ゲて人情に近からぬ樣に思はれます今日我く々が芝居に於て見たく思ひます狂言は義士が國家の爲に艱難辛苦を極め其政事を改良し其社會を文明に進め若くは偉大の發明を爲すに當りて知識あり學問ある婦人が此義士の志を感じ相慕ひて共に艱難を與にする等の事を演ずるもので御ざります決して阿はん長右衛門阿七吉佐などの狂言を見るを好みますまい然るに今日の芝居は我々の望む所の狂言少なくして望まざる狂言の多きとはなんと欠點ではありませんか第四器物第五繪畫の二者は互に結び合ひて居るものゆゑ玆に一處に論じましよう一躰古人の畫に於て顯はす想像は甚だ欠點の多いもので御ざります私は嘗て繪畫共進會に於て僧が衣を縫へる所の畫を見ましたが其兩眼を針孔に注ぎて糸を通さんと欲する樣は實に詞に盡し難き程のもので御ざりました併しながら其傍に居眠りせる小僧の形は甚だ小さくて割合に合ひません是れは則ち其書手の卓見にて其精神を籠めたる所に手際を顯はせば其他は大概にして可なりとの決斷で御ざりましよう土佐畫に於て多く家根なき家を畫くも此類の見識に起りしと思ひます又た佛畫に於て前に立つ菩薩の小なる譯も此等の主意でありましよふ去れば古人の畫は道具立が善く揃はぬものが多いと思ひます畫に就いて之を言へ

は古人の畫は行書で御ざりましよう乎行書ハ下手が摸てハイケますまい下手が摸ねて善いのは楷書で御ざいましよう殊に南畫などハ筆意を尊び形似を求めざるものにて筆意なき下手が之れを畫くときハ全くモヂヤモヂヤ〳〵で御坐ります此繪を以て陶器や漆器銅器などに畫くことで御座りますも私などの見る所にてハ此等の器物は繪畫ある丈け風韻が損ぜる樣に思ひます是れハなんと我々の一世をして愉快ならしむるに大欠點でハありませんか

去れバ面白き想像の常に胸中に浮まんことを望みて折角に研究せんとしたる古人の想像は皆な多少の欠點ありて今日の我々ハ不適當ある者となりましたハ甚だ殘念でハありませんか然らバ則ち如何にして宜しからんか別に新案を立て意匠を凝らして一世をして愉快ならしむるの方法を講ぜねバなりますまい」私ハ以上に於て諸種の想像に欠點あることを述べましたは暗に我邦の婦人をして男子の氣性の變化したることを知らしめんとの考を含みて居ることで御ざいます夫れ男子の氣性活潑になりて文章詩歌音曲ハ勿論芝居までも從前の如き者でも樂ましくなき今日に於ては一家の内の芝居も亦從前の如き者でハイケますまい一躰婦人も想像にハ餘程富みて居るかと私ハ思ひます去れバ貴婦人方の房の飾り付け方衣服の着工合冠簪の挿し鹽梅等にハ多少の意匠を存して見るものをして其心を失はしむるの風致あるハ申すまでもなく下女もしたの臺處の方付工合や御香の物の切り方に至るまで餘程やさしき趣きあるうと思はれます然れバ更に之に加るに學問智識を以てして其想像を高尚ならしめましたならバ社會の幸福は一層增進することでありましようナポレチン第一世が軍陣に疲れて家に歸らるゝに其夫人が琴を彈ぜるを聞きて其勞を忘れられたと申すことで御ざります一躰婦人にハ斯の如き絶大の力のあることで御ざいます去れバ我國の男子をして皆な其事業の困難に當りて屈せざらしめんと欲せバ婦人たるものハ常に男子が失敗して歸りたるときに當りて之を鼓舞し之と振作し明日家を出づるまでにも十分に其勇氣を恢復せしむる丈けの事を爲さねバなりません之を爲すにハ敢て婦人が智惠を出して男子に教ゆるなどゝ申すことを要しません唯々其見込の慥かなることを認め同意を表する位の事にて可なることと存じます然し無學文盲なる婦人が同意を表したりとて男子の氣を鼓舞するにハ足りますまいが其婦人學識あり且つ世間の事情に通ずるものにして此失敗せる男子の意を慰むるときハ十分に其勇氣を恢復するもので御ざります况してや文章詩歌管絃糸竹の妙技あり古來英雄豪傑の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の事跡を談論し著作者の巧拙を評判するの才識あるに於てをや然るときハ婦人の品位も登り社會の幸福も增進し且つ男子の事業を助くることにて風俗の改良も全く茲に淵源するであらうと存じます之を爲すにはなんと婦人の學識と勸め想像を高尚にするより致方はないでありませんか私が大まかに人間を區別すれば男子は多く俗世界に屬し婦人ハ多く想像世界に屬すかと思ひます然れバ以上の想像の欠點を補ふは婦人が勉めて任せねバなりますまい男子も素とより力を添へるでありましようが婦人も決して傍觀すべき事でハないと存じます

斯く述べますも私は敢て世間に喧しき所の男女同權を贊成するものでハありません私ハ男女同權と申す意味を理解いたしません私ハ男女の間に權利ありて今日の男子ハ婦人の權利を殺ぎたるものなれバ婦人ハ此權利を取戾さねバならぬなど丶云ふ樣な事のあることを認めません私ハ男子が如何にせバ同權で婦人が如何にすれバ不同權となすことを解しません且つ此語ハ餘程弊のあると思ひます近頃ある落語家の話を聞くに賤しき夫婦ありて喧嘩したるに女房ハ直に亭主殿の脚に喰ひ付きましたとの事で御ざいます何故ふ脚に喰ひ付きたかと尋ぬるに是れも男女同權の說を間違へて男女唐犬と思ひました故だと申します斯る弊ある以上ハ贊成が出來ないではありませんか

私は以上述べし所を以て讀書會の婦人方に諷する心得ではありません讀書會ハ婦人も十分學識ありて且つ方に研究を勉めらる丶御方と信じます然しながら私ハ我邦全躰の上より觀察すれバ私の述べし所は決して婦人に對し無益の言でないと信じます

●新報

○日本讀書會　同會ハ會員相約し書籍を定めて講讀するを主旨とし一昨年ハ加藤弘之神田孝平兩氏を請じ第一回の演說會を開きたるが過る十五日は其第二回を木挽町の厚生館に開き福澤諭吉島田三郎田口卯吉三氏の演說ありたり同日は館內溢るゝ斗りに充ち滿ちて婦人方の數も甚だ多く惣じて一千人の上に出る聽衆あるやうに見うけたり吾人ハ社友林茂淳氏と同行して三氏の演說を筆記せしめたれバ同日引札を配りて約し置たる如く本号に先づ田口氏の演說を揭ぐるものなり

將に印刷に附せんとするとき田口氏より其草稿を寄送ありたれバ急かに林氏の速記文にかへ之を揭ぐることとなりぬ是れ寧ろ事の精確なるを欲せるが故なり

○女子交際會　前々號に其の主旨書と假規則とを揭げたる同會は目下續々入會を申込まるゝ貴婦人女生徒あるよしにて來月早

く第一會を催ほさるゝとのことなりお志あらん方は麴町平川町六丁目五番地女子交際會事務所へ御申込あるべし

○廣島婦人會　廣島鎭台軍醫長長瀨氏の發起にて昨年八月頃より毎月十日軍人軍屬等の夫人令孃方を集め軍醫諸君綳帶撒糸の製法幷に使用法看護法患者救急法及び修身學等の敎授演習等ありて逐日盛會に赴き目下相會ずる婦人三四十名の上に出づ云々在廣島筆影山人よりの通信あり

○地歌の改正　當地の舊撿校高正雄一といふ人の發起にて地歌の改正に手をつけたれバ程なく世におほやけにすべし歌ハあとより送るべしと私立大坂女學校の敎員取締山田淳女史より申し越されたり

○女の調法　と云へバ可笑く聞ゆべきが全く堅き話にて是迄各官林の種蒔及び苗木植附等にて男女共に使用し來りしが其結果ハ却て女の方優る處あるのみならず雇賃さへ廉なれバ爾來は婦女子のみを使用する事に決せられたりと云ふ（五月十九日東京日々新聞）

○結婚の制限　靜岡縣廳より結婚の儀ハ從來一般に年齡の制限なきを以て早婚する者多く其弊害尠からざれバとて司法省へ伺ハれしに十二歳未滿の婦女ハ結婚相成らざる旨指令ありし趣なり（五月廿日朝野新聞）

○男女の關係　陸奥宗光氏が紀州和歌山にて演説ありしうちに云く男女の關係即ち夫婦の關係を一層改め今日の如く婦女をして男子の奴隸の如き有樣におちしめず成るべき丈け婦人をして男子の位地に近かづかしめ所謂る男女同權の道に赴かせ申したし斯に御斷り申置まする今男女同權と申ましたハ社會上の見解道德上の見解より申たる事にて是迄の如く男子が大層尊くして女子は甚賤しき樣の有樣でなく大抵男女の間に尊卑の差引なき樣にいたし度と申事にて夫の近時歐米にて盛に流行する政治上に於て男女同權を得せしむると申譯になく候私も政治上に日本の婦人が日本の男子と同樣の權を有し得べきか否ハ此處に論じまする事を欲しませんが又た政治上の男女同權と申事ハ專ら立法權を女子に分與すると申事にて如何なる國にも男女同權とす行政權を女子に分與したる國なく亦た分與せむといふ議論も未だ起らざるゆへ未だ曾て歐洲何れの國にも女子にて內閣總理大臣となりし人もなく女子にて縣令となりし人もなく唯其爭ふ所ハ國會議員撰擧の事に女子が男子と齊き權を有するが有せざるかと申事で御坐り升ずが日本には未だ國會の設けなく立法權と行政權との區域の判然たらぬ今日故實は政治上にて男女同權を

云ふべき地面なき事たるのみならず今私が主張して居まする日本人を歐洲風になすの目的上には男女同權の事を政治上に用ひんよりは先づ社會上に用ひる方が第一着の急務と思ひますから私は何分今日の如き男尊く女卑き風俗を一變いたし度思ひます云々

○大島の婦人　同島の婦人は往々スゴキ帶を締めて髮は當時流行の束髮の如き風に束ね內地にて婦人の前垂とでも申す如き製への木綿切を以て髮を蔽へり婦人髮を大切にするは古來よりの習慣にて斯くはせしなり隨分長髮にて髮色眞とに漆黑內地婦人の髮より美なるもの多し(五月四日鎭西日報)

○獄中の婚禮　とは恐らく讀者も始めて聞く處なるべし近着の「ペルメル、バジエット」新聞に記せる所を見るに露國「ノブゴロット」の監獄に繫がるゝザミズキーと云へるは罪ありて重禁錮十四箇年の刑に處せられしものなるが此者此度「イフエレモツフ」と云へる兵卒の女にて名を何某と呼べる一人の少女と獄中にて目出度婚禮を行なひたり元來此少女も何か罪ありて此獄に繫がれ居り今年の始めに赦されて出獄せしものにて其獄中に在りしとき何時の間にか前のザミズキーと伉儷の約を結びたりと見え其放免の後ザミズキーより右の少女と結婚したき旨を典獄の官吏に願出し處露國の政刑の嚴峻なる代りには又按外に寬大なる所もありて官吏は早速之を許可なしたり之より先きザミズキーは娑婆に在る一人の兄弟に其事を告げたるに同人もヨモヤ今の世に囚徒と夫婦約束を爲す婦人はなかるべく獄中に在りながら婚姻などゝは本氣の沙汰にあらずとて其儘に打捨て置きたる處遂に其筋の許しありと聞きて始めて其實事なるを知り件の少女にも其意を得させて何くれと婚禮の支度を調へ偖定めの日に至れば監獄の監守人はザミズキーは檻房に至りて其体に負はせたる索りを取外し之に黑色の禮服を着せて獄內の禮拜堂に連れ行けば此處には花嫁が婿の兄弟に伴なはれ白色の嫁仕度にて面被を掛けて扣へ居り其より數名の囚徒が手傳と爲えて形の如く婚姻の儀式を執行なひ終れば新夫婦は一時間を限り共に檻房內に居ることを許され監守人は兩人を其檻房に連れ行きて二人の爲めに祝盃を擧げ直ちに房內を立出づれば迹には夫婦二人の其外に火鉢に掛けたる鉄瓶の火にたぎれて煙りを吹けるのみなりしザミズキーは近々遠方の罪人殖民地に送らるゝ筈なれば此時花嫁と談話の間にも始終共に其地に行くべき旨を勸めたりと云ふ斯くて時刻盡れば看守人再び來りてザミズキーに禮服を脫がせ獄衣と衣せ替へ嫁は再び夫の兄弟に連られて名殘惜しげに其家に歸りたる由(五月十八日時事新報)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●叢話

○五音のかへし（其三）

又たかくろふべしやのろふハかへしすなをバかくすべしやなるが如し此外かたふぞまふのまふハ反しむなれバたふぞむと云へるに同じくくれなゐのなハのあの反しなれバくれのあゐと云へるに同じく玉にもぬける春の柳かのかはかなのかへしなれバ柳かなと云へるに同じくとまれかくまれのまハもあのかへしなれバともあれかくもあれと云へるに同じく花とや見らんのらんのらハるらの反しなれば花とや見るらんと云へるに同じくさうじさうぶいづれもしやのかへしにてしやうじ（障子）しやうぶ（菖蒲）と云へるに同じきなり又た俗語に關東にてうざらうさうだらうと云へるぞもであのかへしにてうであらうさうであらうと云へるに同じく京大坂にてかうされたさうされたと云ふさもせらの反しにてかうせられたさうせられたに同じ余ハ推して知るべし先哲も此のかへしやうを折ふしはいハれたれ共かやうに詞の延約にて古言の辨まへらるるとハ思ハざりしと見へたり此を知らざれバ思ハぬあやまりにおちいる者なれば人々よく心すべし古今集遠鏡に

梅が香をそでにうつして止めてハ
　はるはそぐともかたみあらまし

の註に梅ノ匂ヒヲ袖ニウツシテトメヲイタナラバ春ハ過テシマウタト云テモソレガ春ノ形見デアラフニといそれたれど止めてハのてはたれのかへしのてにてあるバ梅ノ匂ヒヲカヤウニ袖へウツシテ止メタレバ形見ニナラフと云ふとなり止メヲイタラバとハ未然なり止メタレバハ既に然る后なりたゞかへし様を知らせて心をとけバかゝる誤あるなり又た太祓にも如此可々呑底波如此久氣吹放底波云々なぞあると可々呑たらバ氣吹放たらバとしてきこゆべきや可々呑たれバ氣吹放たれバならぞてハ心得がたきなるべし

又た青柳を青やなぎの中畧といへるもとの五音の反し様を知らざる故の甚しき誤なりやなぎのやなの反しハやなれバやぎと云ひてやなぎと云へるにあたるなり若し然るにあらせ中畧にて詞になると云ハゞさくらをさら紅葉をもぢと云ひてきこゆべきかさて此の五音の反しを暗に覺ゆるを初學の基として活語辭を會得せるときはいかでかおのづから正しき皇國のいにしへにかへらざるべき

右五音のかへし初學にとりて大なる助なるべし之によりて假名遣の大畧を知るべし

○西洋禮式（第七）

談話の禮

十三　男子が學識ある貴婦人と談話するときは貴婦人として其の才藝を現はさしめ得べきやうに談じかくるを以て禮の上乘とぞ

十四　男子もし通常の婦人と談話するときは學術、政治、文學、等に關する談話をやめ成るべく之と喜ばする如き面白き談話を為すをよしとぞ

十五　會合の節長議論となすは當人等こそ愉快なれ傍なる人々には甚だ迷惑のことゆゑ常に一問題に關し余り長く話さぬやう心得るを第一とぞ

十六　男子婦人のいづれを問はず其前に於て余りに學文上の事を談話するは學者氣取の人たるを免れず失禮と云ふべし

十七　婦人は常に温和にして且つ低き聲をもて談話するをよしとす高聲は卑くきこえ且つ粗暴に見ゆすべて女の言葉の温和ならずして卑きは其の品格を太甚しく下るものなり

十八　談話中古事を引用するときは其の短くして且つ面白く恰も其場合に適當するものたるべし

十九　他人の談話をきくときは面白く思ふ体を為すを禮とす

二十　他人の談じ合ふ傍にありて笑ふは若き婦人の特に為すまじきものとす

廿一　男子會合の節によき談話を為さんとせば當今の新聞と晩近の歷史とをよく承知するを要す

廿二　絶えず頓智風に談話するは反つて人の愛を失ふものとす

廿三　身分高き紳士又は貴婦人と談話するとき余り屢ば尊稱を呼ぶ可らず但だ下婢從僕は何事にも旦那樣(My lord)奥樣(my lady)とよびかくるをよし尤も折々はかの尊稱を呼ぶも宜し例へば閣下先刻申上ましたと存じます(I think I have already mentioned to your lordship)又は婦人既に仰ありしと存じます(I think you remarked, countess)など云ふ如し然し通常は貴人にも常人に談じかくる如く談ずるを禮とす去れば英國の皇太子にもsir 足下と云ひ女皇にもmadameと談じかくることなり

○日本婚禮の風俗集（三）

美作國眞島郡高田(舊勝山藩城下)にては婚禮の夜若者等其家に來りて石塔墓所の茶碗其外忌はしき物を投込むの風あり又毎年五月しりたゝきと稱へて家中の童子等各菖蒲にて作りたるものを以て前年五月五日以來婚姻せる婦女の尻を打つ婦女逃廻るときは其家に亂入することあり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

父母ありと雖も之を制するを得ず故に此等の婦女ハ多くハ預め弁當を持參して藏の内に入り内より堅く鎖して此一日を過すと云ふ又町家にハ正月一日同樣なる事をなす但し其尻を打つに用ふる物ハ藁にて作るなり(箕作元八君)

美作國勝北郡邊にては一村の處女ハ其若者の共有物の如く見做すを以て新に嫁せんと欲せバ此事を先づ若者頭に屆出で全村若者協議の上之を許すを例とす若し此例に從ハずして結婚すれハ必ず若者より亂暴を受くべし偖婚姻の日にも初め式を行ふ室の障子を閉ぢ置き一村の若者等は前庭に席を布き其上に坐し禮式初るとき一時に障子を開き酒を飲み乍ら禮式を見物すると云ふ(同前)

越后國頸城郡の僻村にては婦が他村の者に婚せんとする時は先づ全村の若ひ者仲間の承諾を經ざる可らず若し若者仲間の會議に於て結婚を許可さるれバ其婦は先づ若ひ者仲間の一人へ假りに配婚せざる可らず一度同村若者に婚せずして他村の者に往けバ必ず暴害を被ると云ふ(渡瀬莊三郎君)

以上三項ともに明治以前の風習と示す

信濃上田町にて婚姻の當夜新夫の家にてハ待女郎(夫婦現存の女房之に屆ハる)一人と淸水を入たる茶椀を以て玄關に待ち受け近隣の夫婦ものは各松火を門口に携へ新婦來着するとき右の水をもちたるもの駕籠の戶口に來り新婦を誘ひて玄關に案内し茲に座せしめて之を吞ませ而して休憩處に誘ふ又松火ハ着するとき一束とし火を消す新婦の履物ハ其緒を斷ちて屋上に投げ上げ再び實家に歸ることなからしむ斯て休憩處にあるとき婦の帽子を脫するなり。又床入ハ一二品の肴に煖めたる酒を臥床の頭に出し媒介人の婦酌をとり新夫より新婦へさし飲み合ひ床盃となす此時米一升に鰹節一本を添へ置く床盃すみたらバ新夫婦を床につかしめ媒婦ハ躍り乍ら室を出るかくて其室の廻りの唐紙を外より叩く(佐々木正一君)

○西洋婚姻談(第一回)

婚姻の大切なるとハ此頃の女學雜誌に屢バ論じてほとんど余すところなしと雖も我國現今の有樣を見れば歎く可きと甚だ多く婚姻の禮尤も亂れて其の儀ハ恰かも器物のとりやりに似たり然のみならず父母の壓制、一村の束縛、あんぜによりて心にすまぬ緣組をして一生を不愉快の中に送る婦人甚多きは尤も慨歎すべきところなり翻つて西洋諸國文明の土地に行ハるゝ婚姻の有樣を見れバ實に我國と雲泥の差違ありて吾人が一日も早く此地に行ハらせんと欲せる條甚だ多し是れ必竟彼國にハ女子の教育

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

行はれ社會は自由さかむなるよりの事にて之を直ちに我國に行はれんとは望み得まじき非望なれども若し其景況とさゝて一よは我國婚姻の風習を改良する心得ともし二には我國の縁組をして成るべく早く彼樣に至らせんとの奮發を起す便とせば其効も少からじと考え玆に緒をひらきて西洋婚姻のあらましを談るものなり

西洋文明の地に於て取結ぶ婚姻には父母の壓制、他人の束縛、などは無理に行はるゝは絶えてあることなし結婚の式場にて僧徒媒介人となり新夫新婦に向ひて云ふやう君等は他人のそゝめによらず浮世の事情に縛らるゝなく眞實に相ひ愛するは至情と以て玆に夫婦とあり玉ふや否やと其よ之を問ひ明らめ眞に相愛し自己の決心を以て結婚する旨の盟をなさしめたるのち偕て其手を握らする程なり去れば一生を相思相愛のうちよ送りて樂しきと限りなし人間かくの如き夫婦を得てこそ初て婚姻の眞樂あることなるべし故に夫を撰み婦を定るは一に男子と娘孃との判斷にあるが故に隨て其心得しるべき箇條甚だ多しと云へり

先づ學校は友人の、宴會の交際か、近隣のつきあひか、其他踏舞會にて共に跳りたるか、すべてそれ／＼の事情により男女相交際するあいだに於て共に相慕ふは心ありて親密の交りを求むる念兩方に現るときは即ちコアートシップと云ひ之を譯すれば愛交又は戀友とも云ふべき親密の交際をなすとなり尤も娘孃は何事も其母に相談するを至當とし且つ尤もよき覺悟とすることなればば斯の愛交を爲さんとの念あるまへには一應其心中を母に話して其は親切なる敎をうくるをよしとするなり斯て愛情いよ／＼密となり前に所云るコアートシップを行ふ間よは男子は娘孃は家よ行きて其父母兄弟と交り恰かも一家の如く取扱はれて往來する間に娘孃は男子の人となりを吟味し男子は娘孃の心術をせんさくし只だよく相知りて眞實の愛を得んとを專らとすると也

●寄書

○姉妹諸君に告ぐ

在東都　咲軒女史

妾は海南の女兒なり曾て姉さん達へお尋申すと題て鄕里の某新聞に投寄したることあり今重復ながら之を補綴し貴社新誌に寄せ幸に貴社一篇の餘白を吝むなくんは幸甚

甲鉄艦海よありて鯨波を叱咤し火輪車陸に列なりて長風を驅逐す邊陲に蛛網の如き電信の架設したるあり閭里に伊唔の聲する學舍の旺盛なるあると見て直に文明の射影開化の兆候なりとして意氣揚々たるのみならず日本文明の花已に爛熳なり開化の月

早や鮮娟なりと爲すもの鮮からず是謬見の甚しきものにして文明の性質を通曉せざるものなりと言ざるを得ず何となれバ是皮相の開化にして徒に泰西を摸倣せるに過ざれバなり何を以てか文明の標準となすを得んや然らバ則ち眞正の文明なるものハ何を以てか之を卜知するを得るか妾謂へらく則女子教育の完不完以て一國の智識ハ程度を察知するに足るなり西洋の俚諺に云へることあり夫の賢愚を知らんと欲せバ其妻を見よと妾ハ言ふ一國智識ハ價位を判せんと欲せバ宜く其國の女子を見るべしと妾曾てイーストレーキ夫人の演説を聞たることあり同演説中妾をして轉た感嘆の情を喚起せしめたるものハ妾等社會の勢力を論せられたる點なり其説に云へることあり

(前畧)教育を受たる婦人にハ實に驚く可き勢力あるものにて家内ハ婦人が統治せる王國なりと云ふも敢て過言に非らず婦人若し其性情を發揚せバ安全なる場處あり其功名を立る領地あり必しも政治上に喙を容るゝを要せず會議に參席するを要せず社會の公政に奔走するを要せず而して未來の政治家の志を陶治するハ男兒に非らずして婦人にあり訓言と實行とに依りて高等の政治家を育成するハ男兒にあらずして婦人にありされバ婦人ハ柔軟なる手を以て政治の樞機を握ると云ふも不可なかるべし而して未來の世運ハ婦人が贊成する一笑と冷待する一顰とに依りて決定せらる可し云々

姉妹諸君ハ右の演説を聞て果して如何なる感想を喚起せらるゝや實に日本將來の開化は妾等が平常に子弟を教育するの結果なり今日の現象も又妾等が精神習慣を以て卜知するを得るなり然らバ則ち我國の開化を左右するものは妾等社會なり文明ハ進路を誘導するものハ又妾等社會なり然らバ今日妾等ハ袖手傍觀すべき時に非らず將に奮て此先鞭を把らざる可らざるなり而して顧て我同胞姉妹の現象を見よ未だ野蠻の風俗を脱すること遠からず其爲す處も常に必要も虛飾の壓制せらるゝの狀態あるに非らずやスペンサアー氏曰く開明の度に從ふて必要の虛飾を壓倒するに到る愈進んで愈甚しと今吾姉妹の爲す處として浮飾を尙び爲に實利を失ふものならざるハなし彼曾て流行せし束髮の如き固より開明の良法たりと雖も好事者流之を浮飾し爲に豫め束髮主唱者が期したる衛生と經濟の如き只に絶無に歸したるのみならず却て費用を要することハ以前の結髮に倍するものと見るに非らずや何ろや他なし束髮の實益を愛するものに非らずして其珍奇なるを喜ぶものなれバなり夫れ如斯其美擧の美を顯すこと能ハずして妄に美を塗抹せんとす若吾邦の男兒妾等を詰て汝

等眞誠に吾邦の開明を誘導せんとするか將た野蠻を墨守せしめんとするかと言ハバ諸君ハ當に其答辭に窮するなるべし

夫れ茲に簿記と算數學を了知せずして商業を營まんと云ものあらバ姉妹諸君ハ冷笑して寧ろ其愚蒙を憐まん妾も歴史だも知らずして政治家たらんと云ものあらバ姉妹諸君は將に其無法に喫驚せらるなるべし然るに今体智徳育の何たるすら知らずして直に小兒を教育せんと欲するものあるも姉妹諸君ハ只に之を呵笑せざるのみならず尚自ら此を爲んとするに非らずや實に無識の妾等社會何に依りてか此大責任を全ふするを得んや英人リチユター氏謂へらく世間小兒を教育する父母はヂヤイアントブライリユーブ（我國に譯すれバ千手觀音の意なり）の如しと蓋し自已の感情に從ひ昨日是としたることを今日ハ非とし以て小兒を五里霧中に防隍せしむること尚千手を以て自在に物品を取扱ふ如くなれバなり如斯妾等は智識なく經驗なく且勇氣に乏しきものなるに尚改むることを是爲さず直に日本開化の樞要を握り將來の文明を誘導せんとするの責を甘受するか又翻て姉妹諸君が体質を見よ其柔弱にして身体の矮少体量の輕き實に意想の外にあらんとす近年日本生命保險會社に於て同社申込人の体質を徹査したるに我邦男子身体の平均も之を英國男子の平均に比すれバ其矮少なること五寸八分の差異を見るに非らずや又之を英國女子に比較するも只一分の高きを致すに過ざるなり其肺の容量の如きハ殆んど三十立方寸の差を見んとす尤驚て而して又驚く可きなり男子にして已に然り若し我邦女子の体質を調査せバ果して如何ぞや蓋し西洋人をして日本將來の開明を誘導するの任に堪るや否やの疑怪を團結せしむるや必然の理あり何となれバ身体の矮少肺量ハ劣等なるものハ精神の活潑なるものも少なく如之堂々として一國の重任を負ふの偉丈夫を生ずることも又鮮かるべければなり

然而して今此現狀を回復せんと欲するも易々たる事業に非らず數世を過るに非んバ能ハず教育の組織ハ政治の組織の如く搆造せらるべきものに非らず發生するものなれバなり故に其進化も又一時に搆造すべからず漸々に發達進化するものなれバ暫時に於てハ吾人に無感覺なり然れども妾はセレーの歌の如く到底古代に得たる習慣偏心誤謬を杜絶すること能ハずと云ふが如き理想を懷くものに非らず然れども茲に最も妾等が苦心するものは妾等をして一朝改革の効を奏せしむること能ハざるものあり何ぞや祖先遺傳是なり此祖先遺傳なるものは習慣偏心誤謬を子孫に遺傳するが故に妾等をして一投手一擧足教育の革命を爲す能ハざらしむるものなれば只妾等ハ自已の偏心を匡正し習慣を

改良し全く善良の性を遺傳せしむるに到らざんば實に後來の少年をして活潑なる精神と勇壯なる氣力を養成せしむること能はざるなり語を換て之を云へば如何に教育も旺盛を致し文物は燦然として見るべく男子は勇奮悉く實學に從事するも妾等をして今日の如く優柔不斷智識なく又定見なく時々の感情に從ふて子弟を左右せしむる如き教育法を施行する以上は未だ日本國は開明の天地たる能わざるなり野蠻の舊習をして顔色なからしむる能わざるなり然らば則ち今日の女子は開明を胚胎せしむる淵源なり開明を誘導する基礎なり夫れ妾等社會の任や如斯重く業や如斯難し然るに姉妹諸君は何が故に因循姑息只男兒の鼻息を窺ふて以て足れりとなし社會萬般學藝の思想の如きは全く男子に委頼して毫も自ら此大責任を負ひ進取の氣象を養成するの心なきは抑も何の理ぞや妾之を知るに苦むなり否之を悲むなりスペンサアー氏曰く人情の性人情進化の楷梯及情の作用を知らずして小兒を教育するの婦人こそ世に恐怖すべきの最なるものなりと姉妹諸君は此語を翫味して以て如何の妙味ありとせらるゝか蓋し輕々看過すべからざるの語なり然るに姉妹諸君は何に依りて其智識を發達し經驗を高尚ならしめんと欲するか妾謂へらく其策種々あるべしと雖も其最も簡易なるものは新聞紙稗史に若くなし女學雜誌の發行の如き此旨趣に外ならざるべしと信ずるなり彼○○會の如きは何の旨趣たるを知らず只西洋の風を摸倣しだるものならんなれ共若彼をして吾姉妹諸君を稗益せんとするの意ならしめば妾を以て策の得たるものとなす能はざるなり否妾は左手を擧る能はざるなり乞ふ其策畧に到つては將に他日を期して論する處あらんとす然れども已に妾か如き頑蒙のものすら今日姉妹諸君の奮起せざる可らざるの秋なるを知る何ぞ英敏の姉妹諸君にして之を覺らざるの理あらんや蓋し妾の稿を讀んで遼東の白豕となし以て冷笑せらるゝなるべし

○婦人問答（第二）　吉田京佐戲稿

再應說ヲ幾度トナク綴ルニ似タレド枝カラ枝ノ花ト實ヲマダ悉ク治メネバ根分繼穗ノ物語リ猶ホ說殘セシ問答ヲ爰ニ記ス

偖テモ於古ハ於新ノ教訓ニ據リテ學校通ヒヲナセシニ日ニ增シ學文ノ直味ヲ覺ユルニ隨ヒ女權ノ擴張セザルベカラザルヲ歎キ再ビ於新ト一協議セント或ル日ノ日曜ヲ以テ於新ヲ訪フタリト假定セラレヨ

御免クダサヒ於新ハイ何方樣デスカ○オヤ於古サヤンイヤデスヨー御免ナサヘナンノト佗人ガマシク御言ヒデナク早ク御上リナサヘヨ有難存ジマス先ヅ何カト貴婦ニ御禮ノ申上タサニ今日

態々御邪魔ニ上ツタノテゴザリマスガ私モ段々ノ教訓デ漸々社會ノ道理ガ了解マシタカラ猶ホ又精シク種々ノコチ伺ヒ○ドウシテモ貴婦ノ仰ル通リ女權チ伸張スル覺悟デ參リマシタノデス○マー於古チヤンユツクリト御話ヨ私モ貴婦ト御話スルノガ何ヨリノ快樂デスカラ、ドウカ今日ハ何ニモ厭慮ナシニ言ヒタヒコチ言フ樣ニシマシヨウヨ○ハイ御言葉ニ甘ヒマシテ申上マス一体先月モ御話アリタル通リ男尊女卑ノ、弊風チ改良スルニハ學文斗リシマシタラバ改ムルニ宜ロシイモノデ御座リマシヨウカ○好キ御考ヒアラハ御話チ願マス成ル程ソレハ學文斗リデハイケマセンノサ唯ダ學文ト言フモノハ事物ノ道理チ弁ヘルモノデ而シテ之レチ實際ニ履行ニハ外ニ手段チ設ケチバナリマスマヘ抑モ女ノ卑メラレタル慣習チ改良スルニハ第一學文第二交際第三婦人風俗改良此ノ三ツノモノガ備ハラザレバ到底女權チ伸張スル譯ニハ參リマスマヘト私ハ考ヒテオリマスノサ○夫レデ近頃女子交際會ト云フモノモ設立シタデアリマシヨウ此交際ト云フモノハ人間ノ最モナスベク且ツ最モ快樂トスルモノニメ苟モ此交際チ欠クトキハ人間ノ樂事ハ忽急トシテ烏有ニ歸スベシ故ニ我國二十年前ト今日チ比較スル片ハ月ト鼈トノ差アリコレ我國モ外國ト交際シテヨリ智識モ博マリ且ツ之チ實際ニ行ヒタルノ一證ナリ之レニ反シテ吾國婦人ノ如キハ古來此大切ナル交際チ欠キ偶マ交際スルヿアルモ其談スル處頭ノ飾リニアラサレハ衣服ノ善惡ヨリ其極遂ヒニ俳優ノ品評ニ止マリ毫モ學事ノ進歩チ助クルノ念ナシ且ツ婦人ニシテ少シク學力チ有シ社會ノ道理チ弁明スル片ハ一言シテ「生イキ」ト云ヒ又タ出來過女ト云フニ至リ殊更妙齡二八ノ女子ト男子ノ談話スル片ハ直ニ其レチ評シテ情朗ト云フ此等ノ惡弊次第ニ增長シテ今日ノ如キ有樣ニ至ル之レニ反シテ男子ハ交際モ充分出來學文モ滿足スル程稽古チスルカ故ニ其智識ノ發達スル何ソ羨ニ足ラン女子トテモ骨格容皃コソ男子ト異レ圧智識チ博スルニ於テハ學文オモ勉且ツ交際チ厚フスル片ハ其習得タル學理チ互ニ論究セハ何ソ年來ノ惡弊チ改良スルニ難カルヿガアリマスマヘ最モ此レ許リニテハイケマセンガ夫レハ婦人ノ風俗チ改良セネハナリマセン其風俗中目下改良チ要スルハ婦人ノ結髪方テアリマス先ツ貴婦ニ御問ヒ申マスガ從來ノ髷ト新束髪トハ貴婦ハ何レチ善ト思ヒナサヘマスカソーサチー私ハ嶋田ニ結フテ居リマスカラ矢張嶋田ガ善シト思フワ貴婦ハ束髪ノ渡邊結ヒニ御結ヒダカラ定メシ束髪チ善ト御言ヒテシヨウチー○ナニサ私ガ結フタカラトテソレチ善ヒト云フ譯テアリマセンガ抑モ從來ノ日本ノ髷ハ第一衞生上交際

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上經濟上ニモ害アリマスカラサ束髪ノヿニ就テハ雪ノ舎梅女サント山田サンカ此雜誌デ色々討議モアリマシタガ其理由ヲ考フレハ梅女サンノ論ハ贊成セネハナリマセン今マ婦人ノ腦髓ヲ開拓改良ムルニハ先ツ外部ヲ改良シテ束髪ニセネハナリマスマヘ而シテ世ノ人ガ束髪ヲ見慣レヌモノダカラ無暗ニ惡評云フケレトモ元ト男子ノ散髪ニナリタルトキノヿヲ考フレハ少シモ案スルヿガナヘノサ今試ミニチヨン髷ノ男子ヲ見レハ言ハスシテ頑固爺タルヲ知ルモノヽ如シ此レト同ジク今ヨリ婦人カ總テ束髪ニ結ヒタルトキハ從來ノ島田ヤ丸髷ハ恰モチヨン髷ト同ジ様ニ成リマシヨウト私ハ思フヮ最モ束髪ノ衛生上ヤ交際上經濟上ニ利益アルヿヲ申サネハ御信用ナサランカモ知レマセンガ此レハ束髪ノ本家渡邊サンガ此頃ニ束髪ニ就テ計畫スルヿガアルトカ聞マシタカラ精シク申マセン○成ル程ソーシテ見レハ私モ明日カラ束髪ニ結ヒマシヨウト互ニ語氣ヲ變エテ雜談ニ移レリ

○梅　　明治女學校生徒　田邊たつ子

うめのそくれてよにもてはやさるゝことそわか國のみならそけにその花のうるはしくその香のなつかしきはいふもさらなり霜雪に堪へ百木に先立ちことよみなき山里人に春をしらせまたそが原の神のこちふく風にとのたまひしはあとしたひて心つくしにさまよふなど人にしてもこまほしう色つかぬ松竹のめでたきためしにも猶まさりぬへくおほゆるまゝに

しもゆきをしのくみさをも色も香も
たゝとの花にしくものそなき

社評　優情佳絕

○

●社告

弊社編輯人近藤賢三義十數日前來心臟病を患ひ居候處昨早朝急ニ永逝致候に付全社員痛哭紙筆を執るの念力なし此時恰も本誌の半部を編了したる折なるを以て其後は只僅に殘稿を執りて余白にあてたるのみ故よ兼て廣告し置たる女學校集報の事及び例の佳傳續稿は悉く次号に讓り且つ編集人は不取敢巖本善治代て署名致置候也

五月廿五日　女學雜誌社々員

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

●第二回點取文題　日本女子敎育策

右文題に對し寄答の方ハ來る六月三十日迄に其答文を寄送あらんことを請ふ

寄送の答文ハ社評の上優劣を定め甲乙丙三等の点を得る者にハ各左の賞酬を呈す

甲點者　女學雜誌　三十冊分無代價呈上
乙點者　同　二十冊分無代價呈上
丙點者　同　十冊分無代價呈上

因に云ふ。第一回點取文題日本婦人改良論に對して答文を寄せ賞酬を得たる者は前々号の附錄に收錄する如く福島の三育生以下三氏なり然るに右三育生と云へるは原稿に宿所姓名を秘して寄送ありたるに付き之に其の匿名を記するの甚だ憾たるのみならそ雜誌をと呈送することを得ずして甚だ不本意の至に付若し御不都合なくんバ至急本貫本名を御報有之度候

尚ほ右賞酬の女學雜誌は要定數を呈送するにあるが故に一号づゝ引續きて配送そるとも若くハ同号を數多合送そるともそべて受賞者の便利に任ぜるもの也

廣告

●各地女學校幹事諸氏に告ぐ

本社は今度全國各女學校の景況と調査し其報告を本誌第廿五六の兩号に分載すべき計畫有之當今府下及び橫濱にある女學校の景況と取調べ居候に付其他の各地方に散在する公私女學校の幹事諸氏若くハ有志者にして本社の微志を贊成さるゝあらバ來月十日迄に本社へ向け左の項目に對する答報と寄せられんことを乞ふ

但し右兩号ハ全國の各女學校へ寄送可致事

○女學校在所地名○官立公立私立○何年創立○現今敎員何人及其性名○現今生徒何名○卒業生徒何名

東京本鄉弓町一丁目廿番地　女學雜誌社

農商務大臣谷干城君序
華族女學校學監下田歌子君編

○和文敎科書

●第一帙二冊　定價五十錢
●第二帙二冊　定價五十錢

此書は恭くも我が皇后宮今年二月華族女學校に行啓あらせ玉へる日在校の生徒を召させられて下し賜ハりたるものなれバ凡ろ師範學校中學校などにて和文の敎科書とし用ふべきもの此書に優るものなし此道に志ある人はもとより諸學校の方々も幸に御購讀あらんことを希望そ

右二帙各帙とも郵稅金十六錢づゝ但し東京府内は郵便ハがきにて御注文次第御屆け申上べく候

帝國大學敎授物集高見先生編輯

○かなづかひ敎科書　一冊定價金十五錢

此書ハ假名遣ひの道と敎えて數多の文字の假名つけやうを示せるものなり

帝國大學敎授物集高見先生編集

○言文一致　一冊定價金十四錢

此書も言語と文章と固と一致すべきことを論じて文章の書方につき心得となるべき條々を敎えたるものなり

製本兼發賣元　東京神田猿樂町三丁目一番地　中央堂　宮川保全
發賣元　東京京橋南鍋町二丁目三番地　十一堂　明石範貞
大賣捌　東京日本橋區上槇町八番地　吉田金造
　　　　大坂東區北久寶寺町四丁目　三木佐助

東京大學總理事務取扱文學部長從五位外山正一君序
日本傍聽筆記學會創立員速記法研究會員林茂淳君著

○速記術大要

全壹冊（既刻）　正價郵稅共廿四錢

米國女學士ボアソン氏曰く速記術ハ女子に最も適切ある學術也何となれバ女子ハ男子に比すれは事に綿密なる性質を有それバ也と。されバにや西洋諸國に於て女子の速記術と學ぶ者日を逐て增すとのことなれバ我邦に於ても先覺の女學生諸氏ハ宜く今日に當りて速記術を學び玉ふべし。此書ハ著者が世人の注意を惹き起さむが爲め著述されしものにて速記術の起原字体效用習熟の法西洋諸國に於て速記術の盛に行はるゝ現況我邦從來の筆記法の極めて不完全なりし漢字も假字も書き取りと爲そに不便なると其他速記術に關せる百般の事項を平易簡明に記述せしものにて且參看に便せむ爲め辻新次矢野文雄末廣重恭三君が此學術に關して記述されし文章をも附載せるもの也。請ふ諸君の速に熟讀玩味せられて速記術の效用の至大なるを覺り玉ハむことを

發兌所　東京日本橋區馬喰町二丁目壹番地　興文社
賣捌所　東京本鄉區本鄉弓町一丁目廿番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○演説著作材料新誌

○第四号○發兌

材料新誌は發兌以來世上の好評を博し意外に發賣の數も增加したれバ前号より更に東西人名便覽を附錄としたり

一部定價金十錢。全國無遞送料。六冊即ち半年分前金五十五錢。十二冊即ち一年分前金一圓十錢

見本ハ郵券十錢を送る者に呈そ

送金ハすべて小爲替にて送らるべし

○廢物利用

○一名すたれ物用ひ方○

右ハ元老院議官大鳥圭介君ハ題字あり學農社長津田仙君の序文あり農業雜誌記者巖本善治君の校閲ありて弊社の近藤賢三か編輯したるもの也大凡ろ世に廢きて用ゐ可らさる品々をかゝて有用の途に用ゐると恰も泥土を變じて黃金となし塵芥をかえて寳玉となすが如し發兌以來世上の好評を得新聞紙上に世論にすでに其價値定まりたれバ復た言ふと要せぜ不景氣を歎ぞる人殖産興業に熱心する人、貧民救助を計畫する人、ともに一讀して八十余條の奇法妙術を利用し大に國家の益と興すべし

一部定價郵稅共金五十五錢。送金ハ小爲替なるべし。

○右二書賣捌○

東京本郷弓町一丁目廿番地

女學雜誌社

小崎弘道君著

○政教新論

全一冊洋裝中本百六十頁

定價四十錢郵稅十二錢

目次○第一章今日ハ改革の時代○第二章、從來政教の思想、○第三章、儒教の性質○第四五章儒教の利害○第六章、儒教用ゆ可らぜ○第七八章、宗教道德の必要○第九章、儒教と基督教○第十十一章、基督教と文明○第十二章、基督教と改良○第十三章、教會と政府○第十四章、一己人と社會

抑人生一日も缺く可らざるものは政と教なり邦人政の尊ぶべきと知ると雖も未だ教の重ぞべきと知る者少し本書ハ政教論と題し基督教新聞に掲載したるものと增補校正し之を完了せし者にて我國の新文明と製出するに基督教を以て其根據とせざる可らざる事、政教の相影響する所以及び其關係を論ぞる有益の書なれバ有志の諸君購讀あらんとを

東京京橋區瀧山町六番地

警醒社

轉居

湯島天神町一丁目百三番地 巖本善治

女學雜誌代金ハ別段御催促狀差出し不申候得共前金相切れ候向ハ至急御送金被下度此段更に公告候也

女學雜誌社會計係 森田豐

毎月五の日發 女學雜誌代價郵稅表（府内無遞送料）

一冊	正價金四錢	郵稅一錢	合計 現金五錢
十冊	前金卅八錢	同 十錢	合計 前金四十八錢
廿冊	同 七十錢	同 廿錢	合計 前金九十錢
卅冊	同 壹圓	同 卅錢	合計 前金壹圓卅錢

廣告正價表

一行一回掲出	但廿八字詰	前金五錢
同 三回以上	同	同 一割引
同 六回以上	同	同 二割引

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌） 巖々堂

東京神田區雉子町 團々社支店
同 神田區佐柄木町 東海堂
同 日本橋區新葭町 良明堂
同 日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同 京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同 本郷區元富士町 盛春堂
同 本郷區春木町二丁目 解明堂
同 牛込區肴町 活神堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝

東京芝西久保櫻川町（支局） 萬春堂

發行所 本局 東京本鄉區弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社

持主兼印刷人 瀧田正義

編輯人 巖本善治

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY